

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ スギトウ シゲノブ
氏名 杉藤 重信

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 信州の酒造りと米作りからみる「宿場の系」に関する研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	杉藤 重信	人間関係学部	教授
研究分担者	谷口 功	人間関係学部	教授
研究分担者	宮下 十有	文化情報学部	准教授
研究分担者	江崎 秀男	生活科学部	教授
研究分担者	黒田 由彦	文化情報学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

2014 年度、2015 年度、2016 年度と木祖村、小谷村、大町市、松本市にて伝統行事や酒造りに携わる方々への聞き取り調査をおこなってきた。米がとれない木曾エリアにおいても、宿場に酒屋を置き、酒が生産され消費されてきた。酒は宿場の日常必需品として位置付けられている。本研究の目的は、信州の酒造りと米作りを通して形成された歴史的社会的ネットワークや地域性を、今日の人々の日常的な暮らし（家庭生活・社会活動・経済活動）のなかで再定義することによって、持続可能な社会システムの可能性を考えることにある。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

私たち研究グループは、まずは現地を訪れて、それがどのような場所でありどのような人々が携わっているのか確認することを大切にしている。信州は複数の街道に多数の宿場が設けられたことにより小規模な蔵元が多く存在する。2017 年度は、中野・長野・上田・佐久・伊那・飯田エリアの蔵元と宿場をめぐり、酒造りに携わる人々から話を聞き、資料を収集した。得られた知見を整理することにより、信州の「地域性」を人類学・社会学、そして醸造学といった学際的な視点から捉えることを試みている。また、例年訪れている木祖村藪原を鳥居峠（中山道）を実際に歩くことによって俯瞰することを試みた。さらに大町市（千国街道）で開催された北アルプス芸術祭に参加し、宿場と近隣農村が現代アートによって交差する可能性を検討した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

信州は街道によって4つの文化圏(北信・中信・東信・南信)が形成され、さらに蔵元は、10のエリアに分けられて地域的まとまりを形づくる。北信は中野・長野、中信は北安曇・松本・木曾、東信は上田・佐久、南信は諏訪・伊那・飯田の10エリアである。これらのエリアをめぐってわかったことは、エリアごとの蔵元の関係性については地域性があるが、造られた酒にエリア共通の地域性を見出すことは難しいということである。実際、長野県工業技術総合センター(食品技術部門)においても、水質や米の品種や酵母などの特質を科学的に分析することによって地域的特性を見出そうと試みているが、十分に有意な結果を得ることが難しいとのことである。各蔵元はそれぞれの蔵の特徴を出す事にこだわっているのだという。それにも関わらず、私たちメンバーは信州の酒の「らしさ」を身体的に感じるができる。その「信州らしさ」という共通の「幻想」がどのように構築されるのかを、それぞれの専門領域から問い直すという次の研究段階に進んだ。

杉藤(文化人類学)は「酒造りと生態系」、谷口(地域社会学)は「酒と小都市宿場」、宮下(映像人類学)は「メディアとしての川・酒・祭り」といった専門に引きつけた思考を試みた。微生物と人類との関わりをふまえると、酒造りの文化は単に口にすることを生産するというにとどまらず、酒造りは地域の風土や社会文化と密接に結びついているはずである。そして、現代にもその痕跡を残している宿場町と、米や人を供給していた周辺の村落との関係性、さらには宿場町と宿場町との関係性から現在に通じる都市の源泉を見出すことができるはずである。そこで暮らす人々、さらには訪れる人々の集合的な「記憶」がどのようにつくられて伝えられるのか、映像による記録は重要な役割を果たすはずである。信州の酒蔵をめぐることによって学問領域の横断可能性をあらためて確認した。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①酒造り	②街道	③宿場	④地域性
⑤生態系	⑥小都市	⑦メディア	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

『ワーキングペーパー』No.2 (2018 人間関係学部) に、「信州の酒蔵めぐりからの試論」(編集: 谷口功) として以下の論考を記す。

杉藤重信、「酒造りの生態系: 長野県の街道と宿場町をめぐって」、p35-45

谷口功、「宿場の系: 都市論への足がかり」、p46-52

宮下十有、「藪原まつりとつながる、つなげる~木曾川・酒・映像」、p53-57

2018年度5月に椋山人間学研究センター主催の人間講座にて報告予定。